

国際フランス語教授連合 第9回世界大会についての報告

赤 瀬 雅 子*

1996年8月25日から31日までの1週間にわたり、慶応義塾大学三田キャンパスにおいて国際フランス語教授連合第9回世界大会 (IXe Congrès Mondial des Professeurs de Français) が開催された。

この大会についての詳細な報告は、日本における主催団体である日本フランス語教育学会の会報および学会誌でなされるであろうが、ここでは8月25日から31日まで、主として日仏交流史資料展示会場に詰めていた筆者の見たこの大会の報告を行いたい。

この大会では、特にフランス語使用圏 (francophonie) からの中等教育にたずさわる教員の参加も少なくなかった。

大会初日の基調講演として、小林善彦氏 (学習院大) が、日本における教育の基盤をなした寺子屋の存在から説きおこされたこと、各国の具体的なフランス語教育の報告のなかで、三浦信孝氏 (慶応義塾大) が日本のフランス語教員のほとんどは大学教員で、フランス文学専攻者が多いことを述べられたことなどこの大会の参加者を意識しての的確な報告であった。

なお大会初日には、総責任者の加藤晴久氏 (東京大名誉) と副責任者の筑紫文耀氏 (慶応義塾大) が、多年フランス語教育に尽くした功労により、フランス政府より叙勲された。

大会全体としては、やはり、日本フランス語フランス文学会や日本フランス語教育学会でつねに問題となる、英語優位の現代の趨勢の中で、いかにフランス語教育を行なうかということがもっとも関心を持って取り上げられる主題となった。中国・韓国・日本等は、非フランス語使用圏 (non-francophonie) である。やや極言

ではあったが、非フランス語使用圏ではフランス語を学んでも、現実には何の益もないのに、純粹に知的好奇心からフランス語を学んでいる人々の存在が、非常に肯定的に取り上げられた。

さて、この大会は、日本仏学史学会が共催した。「日仏文化交流史展」と名付けられた展示は、薄井歳和氏 (千葉大名誉)、石崎晴己氏 (青山学院大) 等が企画し、同学会が行った。会場は草月会館である。富田仁氏 (日本大学) のフランス文学移入史の詳細な年表、西堀昭氏 (横浜国立大) の法律・軍事等の交流史の写真に解説を付した西堀コレクションの展示、これらに関する書籍の展示を中心としたものである。特筆に値することは、上述の方々の苦心により、村上英俊等の手に成る最初期の辞書、『三語便覧』、『五方通語』等を、閲覧者が自由に手に取れるように出来たことであった。

期間中、大会での講演・シンポジウム・研究発表とは別に、「フランス語と私の作品」と題されたフランス語に関わりの深い作家、青野聰氏、小川国夫氏、吉田加南子氏、なだいなだ氏、萩野アンナ氏の講演が草月会館で開催された。

また「日仏交流のあけぼの」と題して、概説を富田仁氏 (日本大)、フランス語教育を西堀昭氏 (横浜国立大)、宗教を小河織衣氏 (明星大)、軍事を滑川明彦氏 (日本大)、文学を赤瀬雅子 (桃山学院大) がそれぞれ主題とした講演が日仏会館で開催された。

このように、この第9回の大会は滞り無く終了したが、フランス語使用圏と非フランス語使用圏とで4年目毎に交互に行われる大会の次回は、フランス語使用圏のベルギーで2000年に開催されることも、この大会で決定された。

*本学文学部